

安全データシート

作成日 2019年 1月 8日
改訂日 2021年 2月 8日 1/9頁

SDS No.1021-10126

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : 31155 QuEChERS Performance Standard C
製造者名 : Restek Corporation
製造者住所 : 110 Benner Circle, Bellefonte, PA 16823, USA
製造者電話番号 : 1-814-353-1300 (Customer Service)
供給者名 : ジーエルサイエンス株式会社
供給者住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
供給者電話番号 : 03-5323-6611
供給者FAX番号 : 03-5323-6622
製品コード : 1021-10126
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
整理番号(SDS No.) : 1021-10126
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)
使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

GHS分類 : 引火性液体 : 区分2
急性毒性(経皮) : 区分3
急性毒性(吸入:蒸気) : 区分4
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分2A
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(中枢神経系、呼吸器)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分2(中枢神経系、血液系、呼吸器、肝臓、腎臓)
水生環境有害性 短期(急性) : 区分1
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分1

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

H225 引火性の高い液体及び蒸気
H311 皮膚に接触すると有毒
H332 吸入すると有害
H319 強い眼刺激
H370 中枢神経系、呼吸器の障害
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、血液系、呼吸器、肝臓、腎臓の障害のおそれ
H400 水生生物に非常に強い毒性
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

[安全対策]

P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P210 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地すること。
P241 防爆型の機器を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。
P243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。

P270	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P271	屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
P273	環境への放出を避けること。
[応急措置]	:
P303+P361+P353	皮膚又は髪に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を多量のシャワーと石鹸で洗うこと。
P310	直ちに医師に連絡すること。
P304+P340	吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338	眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308+P311	ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
P314	気分が悪いときは医師の手当てを受けること。
P361+P364	汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P337+P313	眼の刺激が続く場合:医師の手当てを受けること。
P370+P378	火災の場合:消火するために適した消火剤を使用すること。
P391	漏出物を回収すること。
[保管]	:
P403+P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P405	施錠して保管すること。
[廃棄]	:
P501	内容物や容器を処分する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分に該当しない。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	: 混合物
化学名(又は一般名)	: 31155 QuEChERS Performance Standard C 詳細は以下の表に記載
成分及び濃度	: 本製品は、17種類の農薬成分を各300µg/mL含有したアセトニトリル:酢酸(99.9:0.1)溶液です。

化学名(又は一般名)	濃度	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法	安衛法	
アセトニトリル	>99.39%	CH ₃ CN	2-1508	--	75-05-8
酢酸	>0.099%	CH ₃ COOH	2-688	--	64-19-7
ビフェントリン	各0.03%	C ₂₃ H ₂₂ ClF ₃ O ₂	4-1701	7-(3)-277	82657-04-3
キャプタン		C ₉ H ₈ Cl ₃ NO ₂ S	9-934	8-(1)-635	133-06-2
カルバリル		C ₁₂ H ₁₁ NO ₂	4-387	--	63-25-2
シプロジニル		C ₁₄ H ₁₅ N ₃	--	--	121552-61-2
デルタメトリン		C ₂₂ H ₁₉ Br ₂ NO ₃	--	4-(7)-2105	52918-63-5
フェンヘキサミド		C ₁₄ H ₁₇ Cl ₂ NO ₂	--	--	126833-17-8
フェンプロパトリン		C ₂₂ H ₂₃ NO ₃	3-4573	4-(7)-546	39515-41-8
ホルペット		C ₉ H ₄ Cl ₃ NO ₂ S	5-6551	8-(1)-636	133-07-3
イマザリル		C ₁₄ H ₁₄ Cl ₂ N ₂ O	5-6891	8-(2)-2055	35554-44-0
イプロジオン		C ₁₃ H ₁₃ Cl ₂ N ₃ O ₃	--	8-(2)-1131	36734-19-7
メタラキシル		C ₁₅ H ₂₁ NO ₄	--	--	57837-19-1
メチオカルブ		C ₁₁ H ₁₅ NO ₂ S	--	--	2032-65-7
ミクロブタニル		C ₁₅ H ₁₇ ClN ₄	--	8-(3)-968	88671-89-0
cis-ペルメトリン		C ₂₁ H ₂₀ Cl ₂ O ₃	--	--	61949-76-6
trans-ペルメトリン		C ₂₁ H ₂₀ Cl ₂ O ₃	--	--	61949-77-7
チアベンダゾール		C ₁₀ H ₇ N ₃ S	9-820 9-1851	8-(7)-224	148-79-8
ピンクロゾリン		C ₁₂ H ₉ Cl ₂ NO ₃	--	8-(7)-162	50471-44-8

4 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。直ちに医師の手当てを受ける。眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、直ちに医師の手当てを受けること。無理に吐かせないこと。
- 暴露した場合 : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
- 急性症状および遅発性症状の
最も重要な徴候症状 : 蒸気吸入により、一時的な呼吸器刺激性、めまい、衰弱、疲労、悪寒や頭痛などの症状を生じる。接触により眼や皮膚の発赤、痛み、皮膚の乾燥などが生じる。誤飲により腹痛やめまいが生じる。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 火災時の特有危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に発火する。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器が熱に晒されているときは、移さない。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。呼吸保護具を着用する。消火後再び発火するおそれがある。

6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、蒸気/ミスト/粉じん/ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 封じ込めおよび浄化の方法および機材 : 適切な保護具をつけて処理すること。土砂・吸着剤などに吸着させて取り除く。密閉できる空容器に集めて適切に処分する。

7 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
技術的対策 : 火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。
屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
作業衣、作業靴は導電性のものを用いる。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気/ミスト/粉じん/ガスを発生させない。
吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではない。

保管

適切な保管条件 : 保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。
容器は直射日光を避け、冷蔵庫(2~10℃)に密閉して保管する。

避けるべき保管条件 : 火花、高温、スパーク、混触危険物質との接触を避ける。

技術的対策 : 換気のよい場所で容器を密閉し保管する。日光から遮断すること。火気厳禁。

混触危険物質 : 強酸化剤、強塩基、強酸、火源の近くに保管しない。

安全な容器包装材料 : ガラス等

8 ばく露防止措置

設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。
取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度 作業環境評価基準 許容濃度 :

成分名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH TLV-TWA
カルバリル	設定されていない	5 mg/m ³	0.5 mg/m ³
キャプタン		設定されていない	5 mg/m ³
ホルペット			1 mg/m ³
アセトニトリル			20 ppm
酢酸		10 ppm	10 ppm
その他の成分	設定されていない		

保護具

呼吸器の保護具 : 保護マスク

手の保護具 : 不浸透性保護手袋

目の保護具 : 保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣・保護長靴

適切な衛生対策 : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。
取扱い後は手、顔を良く洗いうがいをする。

9 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体

色 : データなし

臭い : 特異臭

融点/凝固点 : -43.82℃

沸点または初留点 : 81.6℃ (760 mmHg)

可燃性 : データなし

爆発下限界及び爆発上限界 : 4.4%(下限)~16%(上限)

引火点 : 12.8℃

自然発火点 : データなし

分解温度 : データなし

pH : データなし

動粘性率 : データなし

溶解度 : データなし

n-オクタノール/水分配係数

log Po/w : データなし

蒸気圧 : データなし

密度及び/または相対密度 : 0.7857 g/cm³ (20℃)

相対ガス密度(空気=1) : 1.4

粒子特性 : 該当しない

1 0 安定性及び反応性

- 反応性 : 適切な保管条件下では安定。
- 化学的安定性 : 適切な保管条件下では安定。光によって変質するおそれがある。
- 危険有害反応可能性 : 適切な保管条件下では安定。
- 避けるべき条件 : 日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源、混触危険物質との接触
- 混触危険物質 : 強酸化剤、酸性化合物
- 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素、シアン化水素、シアンヒドリン、窒素酸化物など

1 1 有害性情報

- 急性毒性(経口)
(ビフェントリン) : 毒性未知成分を含有するため分類できない。
: ラット LD50=47mg/kg(農薬登録申請資料,2004)
- 急性毒性(経皮)
(アセトニトリル) : 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分3に該当。
: ウサギ LD50=395mg/kg(雄)(75%水溶液)、978.8mg/kg(雄)(原液)(EHC 145(1993), EU-RAR(2002),NITE初期リスク評価書(2007))。
(ビフェントリン) : ラット経皮投与でのLD50=790mg/kg(農薬登録申請資料,2001)。
- 急性毒性(吸入：蒸気)
(アセトニトリル) : 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分4に該当。
: ラット LC50=16,000ppm、10,679ppm、17,586ppm(EHC 154(1993),EU-RAR(2002),PATTY(6th,2012),NITE初期リスク評価書(2007))
- 急性毒性(吸入：粉じん、ミスト)
(フェンヘキサミド) : 毒性未知成分を含有するため分類できない。
: ラットLC50値 > 0.32 mg/L(aerosol)(JMPR(2005))。なお、ラットLC50値 > 5.0 5 mg/L(dust)(JMPR(2005))とのデータもある。
(ホルベット) : ラット LC50=0.39mg/L,4h(JMPR(No.897,1995))
- 皮膚腐食性/皮膚刺激性
(酢酸) : 毒性未知成分を含有するため分類できない。
: ウサギあるいはモルモットを用いた試験(PATTY(5th, 2001),ACGIH(2004))において、刺激性の程度はばく露の濃度と時間に依存し、特に50~80%以上の濃度では重度の熱傷と痂皮形成が観察されている。かつ、EU分類ではC;R35である。なお、pHは1.0M=2.4(Merck(14th,2006))である。
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
(アセトニトリル) : 眼区分2の成分合計が99.391%であり、濃度限界(10%)以上のため、区分2Aに該当。
: ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質の眼刺激性は中等度又は重度の刺激性を示すとの報告(NITE初期リスク評価書(2007),EU-RAR(2002))。なお、EU C LP分類において本物質はEye Irrit. 2 に分類されている(ECHA CL Inventory (Access on June 2017))。
(酢酸) : ウサギ眼に氷酢酸を適用直後に破壊的損傷を生じた(ACGIH(2004))こと、別の試験で10%以上の濃度で永続的角膜損傷を伴う重度の刺激性を示した(IUCLID(2000))こと、ヒトで誤って眼に入れてしまった後直ちに洗浄したにも拘らず角膜混濁や虹彩炎を起こし、上皮の再生に何ヶ月も要し特に角膜混濁は永続的であったとの症例報告(PATTY(5th, 2001))もある。
(キャプタン) : 本物質をウサギの眼に適用した眼刺激性試験で24/48/72hのスコアは28~105(Max 110)であり、21日後にも回復しなかった(ECETOC TR48(1998))。また、本物質はヒトの眼に対し重度刺激性物質である(EPA Pesticide(2004))。
- 呼吸器感作性 : データ不足のため混合物として分類できない。
- 皮膚感作性
(キャプタン) : 毒性未知成分を含有するため分類できない。
: 本物質によるヒトパッチテストで高頻度(5%)の陽性の報告があり、ヒトにおいて本物質のばく露に起因すると思われる皮膚炎、蕁麻疹、持続性の紅斑の報告もある(ACGIH(7th,2014))。また、本物質のヒトに対する過剰のばく露は眼刺激性、皮膚刺激性、感作性を示す(HSDB (Access on July 2019))との報告がある。
(ホルベット) : モルモットを用いた試験(Maximization test)(JMPR(No. 897, 1995))において、動物の30%以上(18/20匹)に広範性の発赤がみられ、「strong sensitizer」の評価結果がある。
(ピンクロゾリン) : モルモットを用いたMaximization試験(n=12匹(雄))で本物質を適用したところ、明確な感作性が見られたとの報告がある(JMPR(1995))。

- 生殖細胞変異原性 (アセトニトリル) : 毒性未知成分を含有するため分類できない。
: in vivo試験で陽性と報告されている2件の小核試験(腹腔内投与によるマウス骨髓細胞を用いた試験、吸入によるマウス赤血球を用いた試験)はいずれも欠点があり、また、用量反応性も明確でないことに加え、OECD TGに従って実施した小核試験(腹腔内投与によるマウス骨髓細胞と末梢血を用いた試験)では陰性であったことから、EU-RARでは総合的な遺伝毒性評価として遺伝毒性の有無については明確に判断することはできないとしている。したがって、小核での明確な陽性知見がない。
- 発がん性 (カルバリル) : 毒性未知成分を含有するため分類できない。
: 発がん性に関して、利用可能なヒトを対象とした報告はない。動物実験では、マウスに本物質100~8,000 ppmを2年間混餌投与した発がん性試験で、1,000 ppm以上の雄で肝臓及び脾臓の血管肉腫、腎臓では8,000 ppmの雄で尿細管腫瘍、肝臓では8,000 ppmの雌で肝細胞腫瘍の有意な増加が認められた。また、ラットに本物質250~7,500 ppmを2年間混餌投与した発がん性試験では、7,500 ppmの雌雄で膀胱の移行上皮乳頭腫及び移行上皮がん、雄で甲状腺の濾胞細胞腺腫の有意な増加が認められた(JMPR(2001),食品安全委員会 農薬評価書(2018))。既存分類では、IARCはグループ3(IARC Suppl. 7(1987)),ACGIHはA4(ACGIH(7th, 2008)),EU CLPはCarc. 2、EPA OPP RED(Office of Pesticide Program, Reregistration Eligibility Decision(2008))はL(Likely to be carcinogenic to humans)に分類している。
- 生殖毒性 (チアベンタゾール) : 毒性未知成分を含有するため分類できない。
: JECFA(2001)に記述されているマウスを用いた試験の一次文献(Food. Chem. Toxicol. 22,1984)を入手して精査したところ、「母動物に体重増加抑制、肝臓・心臓・脾臓・腎臓の重量の増加がみられる用量で、胎児に有意な低体重、口蓋裂などの外表異常の有意な増加、生存胎児数の有意な減少、胎児吸収の有意な増加、椎弓の癒合、椎体の癒合などの骨格異常の有意な増加がみられた」旨の記述がある。
- (ピンクロズリン) : ラットを用いた経口投与と多世代試験で、母動物に一般毒性が見られない投与量で、F1世代の雄児動物(100 mg/kg投与群)の外性器のメス化によるオス不妊を引き起こしたとの記述があり、本物質がアンドロゲンレセプターのアンタゴニストになっていると提唱されている。また、ウサギを用いた経口投与試験において、800 mg/kgを投与された15匹中12匹が流産した(JMPR,1995)との記述がある。なお、EU分類はCat. 2; R60-61(EU-Annex I)であり、GHS区分1Bに相当する。
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露) (アセトニトリル) : アセトニトリルが99.391% \geq 10%のため、区分1に該当。
: ヒトでは本物質の誤飲や自殺企図による経口摂取例、及び工場での事故による急性吸入ばく露例が複数例報告されており、急性影響は、疲労感、悪心、嘔吐、錯乱、痙攣、昏睡等であり、重度の場合は死に至るとの記載がある。また、吸入ばく露で鼻、喉に刺激があるとの報告がある(NITE初期リスク評価書(2007))。実験動物では、マウスの単回経口投与試験で区分2範囲の300~2,000 mg/kgで、自発運動低下、振戦、衰弱、正向反射低下、努力呼吸、痙攣、喘ぎ、流涎が認められたとの報告がある。また、マウスの4時間単回吸入ばく露試験で区分2範囲の3,039~5,000 ppmで、自発運動低下、歩行異常、正向反射消失、緩徐呼吸、努力性呼吸、速呼吸、喘ぎ、体温低下、後肢伸展、横臥位、被毛の黄色化が認められたとの報告(EU-RAR(2002),NITE初期リスク評価書(2007))、及びマウスの1時間単回吸入ばく露試験で500~5,000 ppm(4時間換算値:250~2,500 ppm、区分1範囲に相当)で、重度の呼吸困難、あえぎ、振戦、痙攣が認められたとの報告(EHC 154(1993),EU-RAR(2002),NITE初期リスク評価書(2007))がある。更に、ラットの8時間単回吸入ばく露試験で生存例と死亡例の両方に肺の出血とうっ血が認められたとの報告がある(EU-RAR(2002),NITE初期リスク評価書(2007))。この試験では用量の詳細な記載はないが、LC50値(4時間換算値)は10,678 ppm(雄)、17,585 ppm(雌)と報告されており、影響は区分2範囲の用量でみられたと考えられる。
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) (アセトニトリル) : アセトニトリルが99.391% \geq 10%のため、区分2に該当。
: ヒトに関する情報はない。実験動物については、ラットを用いた蒸気による13週間吸入毒性試験(6時間/日、5日間/週)において、区分2のガイダンス値の範囲内である800 ppm(1,340 mg/m³(90日換算:0.97 mg/L))以上で死亡、自発運動低下、被毛粗剛、胸腺の重量減少、貧血症状(赤血球数・ヘモグロビン濃度・ヘマトクリット値の減少)、死亡例で肺のうっ血及び水腫、肺胞・脳出血、骨髓細胞減少、胸腺の萎縮、脾臓のリンパ球減少、卵巣の黄体減少がみられ(NITE初期リスク評価書(2007),環境省リスク評価第3巻(2004),NTP TR447(1996))、ラットを用いた蒸気による90日間吸入毒性試験(7時間/日、5日/週)において、区分2のガイダンス値の範囲内である166 ppm(279 mg/m³(90日換算:0.33 mg/L))以上で肺拡張不全、肺胞の組織球性細胞集簇、330 ppm(554 mg/m³(90日換算:0.65 mg/L))以上で

気管支炎、肺炎がみられている(NITE初期リスク評価書(2007),EU-RAR(2002))。また、マウスを用いた蒸気による13週間吸入毒性試験(6時間/日、5日/週)において、区分1のガイダンス値の範囲内である100 ppm(168 mg/m³)(90日換算:0.12 mg/L)以上で肝臓の重量増加、区分2のガイダンス値の範囲内である200 ppm(335 mg/m³)(90日換算: 0.24 mg/L)以上で前胃の上皮過形成を伴う限局性潰瘍、400 ppm(670 mg/m³)(90日換算: 0.48 mg/L)で死亡、肝細胞空胞化、800 ppm(1,340 mg/m³)(90日換算: 0.97 mg/L)で自発運動低下、円背位、筋硬直がみられ(NITE初期リスク評価書(2007),NTP TR447(1996))、マウスを用いた蒸気による92日間吸入毒性試験(6.5時間/日、5日/週)において、区分1のガイダンス値の範囲内である100 ppm(168 mg/m³)(90日換算: 0.18 mg/L)以上で肝臓の重量増加、区分2のガイダンス値の範囲内である200 ppm(335 mg/m³)(90日換算: 0.36 mg/L)以上で死亡、赤血球数・ヘマトクリット値減少、肝細胞空胞化がみられている(NITE初期リスク評価書(2007))。このほか、サルを用いた蒸気による91日間吸入毒性試験(7時間/日、5日/週)において、区分2のガイダンス値の範囲内である350 ppm(588 mg/m³)(ガイダンス値換算: 0.69 mg/L)で脳の上矢状もしくは下矢状静脈洞の出血、肺の乾酪性結節、肝臓の退色、限局性肺気腫、肺上皮のびまん性増生、急性気管支炎、限局性マクロファージ色素沈着、腎臓の近位尿細管の混濁腫脹がみられている(NITE初期リスク評価書(2007))。

誤えん有害性 : 混合物として分類できない。

1 2 環境影響情報

- 水生環境有害性 短期(急性) : 区分1×毒性乗率が690.69%であり、濃度限界(25%)以上のため、区分1に該当。
- (ビフェントリン) : 甲殻類(オオミジンコ) EC50=0.11µg/L,48h(農薬登録申請資料,2001)
- (キャプタン) : 魚類(ニジマス) LC50=50µg/L,96h(農薬登録資料,1991)
- (カルバリル) : 甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50=0.00026mg/L(WHO/IPCS EHC:1994)
- (フェンプロパトリン) : 甲殻類(オオミジンコ) EC50=0.00053mg/L,48h(AQUIRE,2005)
- (ホルペット) : 魚類(ニジマス) LC50=0.015mg/L,96h(ECOTOX,2008)
- (イプロジオン) : 甲殻類(オオミジンコ) EC50=0.25mg/L,48h(IUCLID,2000)
- (ミクロブタニル) : 甲殻類(Mysid) LC50=0.24mg/L,96h(ECOTOX,2008)
- (ペルメトリン) : 甲殻類(ミシッドシュリンプ) 96時間LC50=0.046µg/L(EHC94(1990))
- (チアベンタゾール) : 甲殻類(オオミジンコ) EC50=0.31mg/L,48h(AQUIRE,2008)
- 水生環境有害性 長期(慢性) : 区分1×毒性乗率が660.75%であり、濃度限界(25%)以上のため、区分1に該当。
- (ビフェントリン) : 急速分解性がないと推定され(BIOWIN)、log Kow=6で生物蓄積性があると推定される(PHYSPROP Database,2005)。
- (キャプタン) : log Kow=2.8で生物蓄積性が低いと推定される(PHYSPROP Database,2005)ものの、BOD=0%で急速分解性がない(既存点検)。
- (カルバリル) : 急速分解性があり(良分解性、BODによる分解度: 71%(化審法DB: 1983))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC(繁殖阻害)= 0.0002 mg/L(EPA AQUIRE:2018, Toumi, H. et al. (2016))
- (フェンプロパトリン) : 急速分解性でない(BIOWIN)。
- (ホルペット) : 急速分解性がない(SRC: BIOWIN 4.10)
- (イプロジオン) : OECD TG301Bでの28日分解度=0.16~0.2%で急速分解性がない(IUCLID,2000)
- (ミクロブタニル) : 急速分解性がない(SRC: BIOWIN 4.10)
- (ペルメトリン) : 急性毒性が区分1、急速分解性がないと推定され(BIOWIN)、生物蓄積性があると推定される(log Kow=6.5(PHYSPROP Database(2005)))。
- (チアベンタゾール) : 急性毒性が区分1で急速分解性がない(BIOWIN)。
- (ビンクロゾリン) : 急性毒性が区分1で急速分解性がない(BIOWIN)。
- 残留性/分解性 : 本製品中には、急速分解性がなく、生物蓄積性があると推定される成分が多数含まれており、水生生物に有毒であると考えられる。
- 生態蓄積性 : 生物蓄積性があると推定される成分を含有する。
- 土壌中の移動性 : データなし
- オゾン層への有害性 : 本製品中の全成分はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。
都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
- 汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1.4 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報 : IMOの規定に従う。

UN No. : 1648

Proper Shipping Name : ACETONITRILE

Class : 3

Packing Group : II

Marine Pollutant : Not applicable

航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。

UN No. : 1648

Proper Shipping Name : Acetonitrile

Class : 3

Packing Group : II

国内規制

陸上規制 : 国内法令の規定に従う。

海上規制 : 船舶安全法の規定に従う。

国連番号 : 1648

品名 : アセトニトリル

クラス : 3

容器等級 : II

海洋汚染物質 : 非該当

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

UN No. : 1648

品名 : アセトニトリル

クラス : 3

容器等級 : II

緊急時応急措置指針番号 : 127

1.5 適用法令

毒物及び劇物取締法 : 劇物(指定令第2条 No.32(有機シアン化合物及び製剤))

労働安全衛生法 : 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No.15(アセトニトリル)

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

化管法 : 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) No.13(アセトニトリル)

化審法 : 優先評価化学物質(法第2条第5項)

消防法 : 第4類引火性液体、第一石油類水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)

船舶安全法(危規則) : 引火性液体(危機則第3条危険物告示別表第1) No.1648

航空法 : 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1) No.1648

海洋汚染防止法 : 有機液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)
個品運送P(施行規則第30条の2の3、国土交通省告示)大気汚染防止法 : 有害大気汚染物質(中環審第9次答申)
揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)

水質汚濁防止法 : 有害物質(法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条)

土壌汚染対策法 : 特定有害物質(法第2条第1項、施行令第1条)

廃掃法 : 特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4)

1.6 その他の情報

引用文献等

化学品安全管理データブック、化学工業日報社

16918の化学商品 化学工業日報社(2018)

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)

航空危険物規則書 第52版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。